

大人のチカラ

14

～子どもたちの未来のために～

社会のルールを身に付ける②

「怒る」と「叱る」の違い

しつけとは、社会の中で生きていくために必要なことを教えること。しかし、やり方を誤ると逆効果にもなりかねません。四国学院大学社会福祉学部社会福祉学科准教授・古賀松香さんは「しつけとはあるべき姿を伝え続けること」と話します。

直してほしいと目的をもって伝える

「怒る」と「叱る」の違いが分かりますか？ 子どもがしつけの現場では「怒る」は感情をそのまま相手にぶ

つけること、「叱る」は教育的な意図をもって相手に伝えることです。前者は子どもに恐怖心や不安感を抱かせるだけで、本当に大切なことは何も伝わりません。直してほしい、してほしいけ

子どもを受け止め親の思いを伝える

子ども間で衝突が起きたり、相手を傷つけたりしたとき、まずは子どもの気持ちを温かく受け止めて。それから「だけど」と切り出して、「〇ちゃん悲しかったと思うよ」「お母さんはこうした方がよかったと思うな」と、状況や相手の気持ちを伝えて、どうすればよかったのか、どうしていけなかったのかを一緒に考えましょう。子ども自身が悪かったと思うことが大切です。

「共感を得ることで子どもは自分が大切にされていると実感し、次に他者の心の理解や信頼につながります」と古賀さん。ただし受け止めるだけでは、あまやかしのつながることも。「時には、火遊びをする、刃物を振り回すといった、自分や周囲に危険が及ぶ行為もあるでしょう。そんな時は感情的にならず、なぜいけないのかを伝えてきちんと叱ること。普段十分気持ちを受け入れて接してれば、厳しく叱ってもきくと分かってくれるはず。決してたたくのではなく、言葉で説明しましょう。」



今すぐはできなくても長い目で見守り、何回も同様の体験を積み重ねること。「ある保育所の先生が、『しつけ』とは『し続けること』とおっしゃっていて、名言だと思いました」と古賀さん。このような親の働きが子どもの発達、ひいては規範意識の芽ばえにつながるのだそうです。